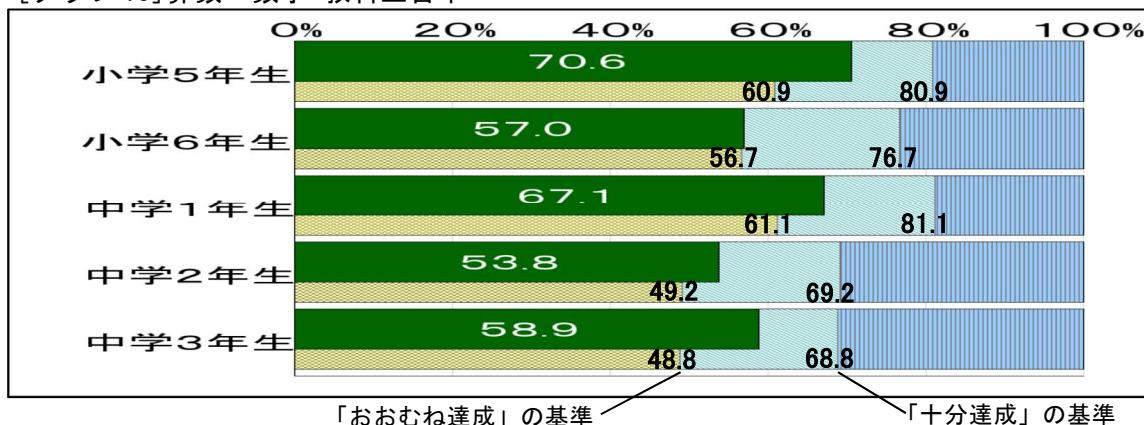


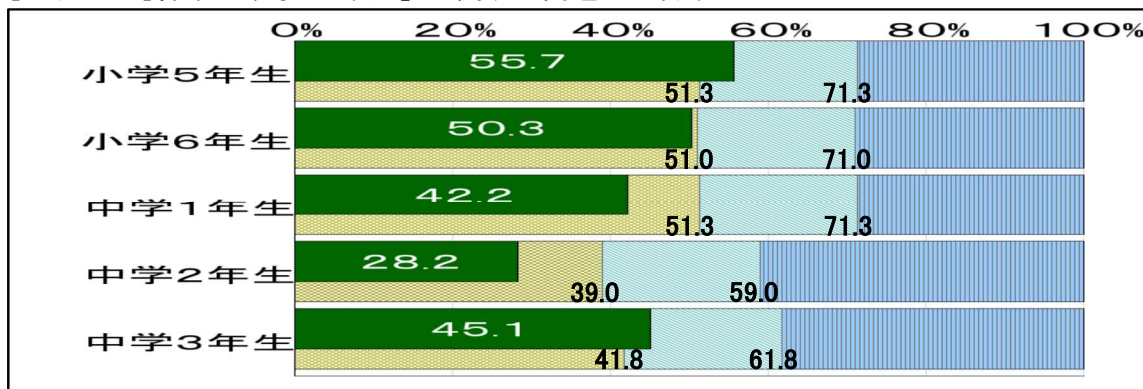
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 13]
- 「活用」に関する問題については、小学6年生、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 14]
- 観点別に見ると、全ての観点について、小学5年生と中学3年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての(数学的な)技能」「数量や図形(など)についての知識・理解」については、小・中学校共に全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方(見方や考え方)」については、小学6年生、中学1年生、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 15~17]
- 内容・領域別に見ると、全ての領域について、小学5年生、中学1年生、中学3年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量関係」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。「図形」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 18~22]

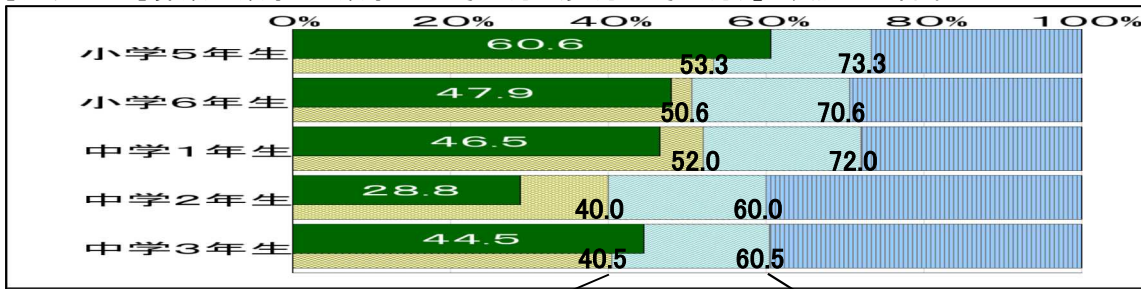
[グラフ 13] 算数・数学 教科正答率



[グラフ 14] 算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



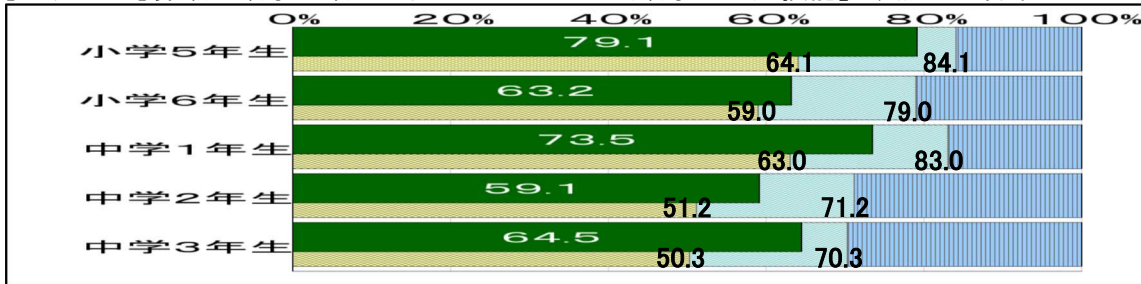
[グラフ15]算数・数学「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



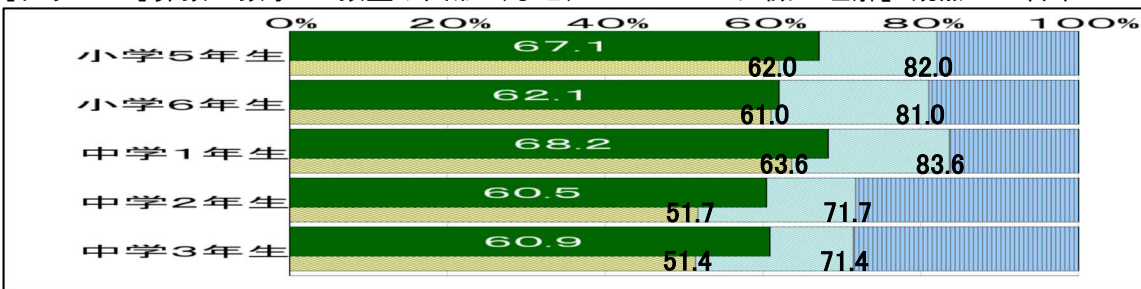
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

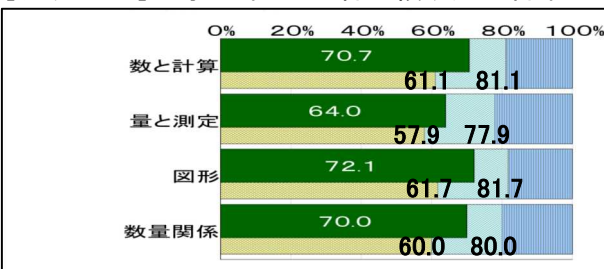
[グラフ16]算数・数学「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



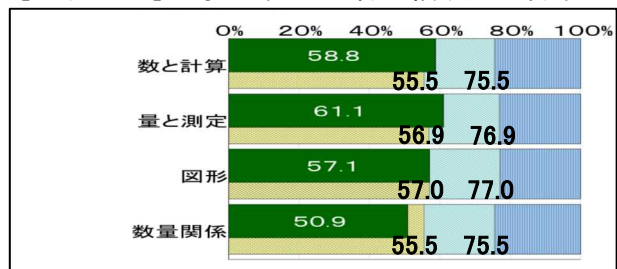
[グラフ17]算数・数学「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



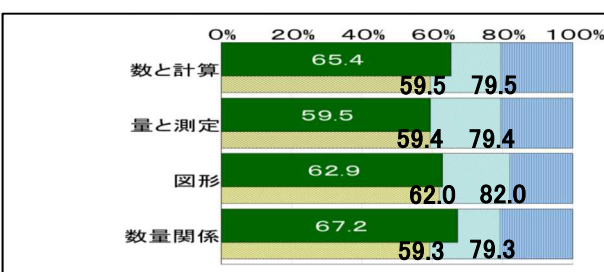
[グラフ18]小学5年生 内容・領域別正答率



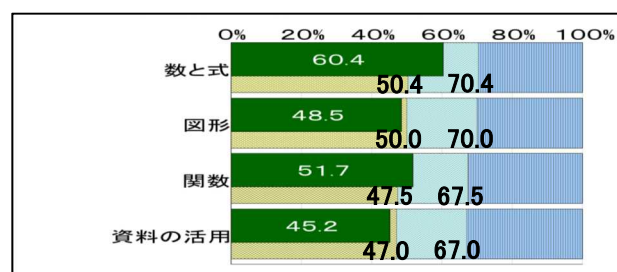
[グラフ19]小学6年生 内容・領域別正答率



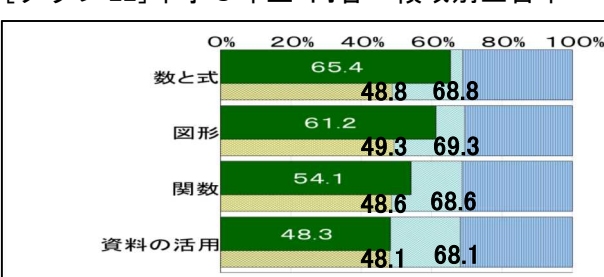
[グラフ20]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ21]中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ22]中学3年生 内容・領域別正答率



## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント

### 小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 小数や分数の加法、整数や分数の除法、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。  
(小学5年生 $\square 1$ (1)(2)(4)、中学1年生 $\square 1$ (1)(2)(3)(4))
- ◇ 分度器を用いて角の大きさを求めたり、 $180^\circ$ の角の大きさを理解したりすることができている。  
(小学5年生 $\square 9$ (1)、小学6年生A $\square 5$ (1))
- ◇ 立方体の展開図、点対称な図形における対応する辺の位置関係、線対称な図形における対応する点の位置関係を理解することができている。  
(小学5年生 $\square 8$ 、中学1年生 $\square 4$ (1)(2))
- ◆ 1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味の理解に課題が見られる。  
(小学5年生 $\square 2$ (1)、小学6年生A $\square 2$ )
- ◆ 2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の理解に課題が見られる。  
(小学6年生A $\square 7$ (1)(2)、中学1年生 $\square 6$ (3))
- ◆ 3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することに課題が見られる。  
(小学6年生B $\square 5$ (1)、中学1年生 $\square 11$ )

#### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係や、小数の除法の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

問題場面を具体物や図と関連付けながら立式したり、その結果を確かめたりする活動を授業に位置付けていますか。

児童が立てた式を基に、「どうしてその式を立てることができるか」ということを、数、式、図や言葉等と関連付けながら説明する活動を授業に位置付けていますか。

正しい式だけでなく、誤った式も意図的に示すなど、どうしてその式では正しくないのかを説明する活動を授業に位置付けていますか。

- ◆ 2 円周率の意味、直径の長さとの関係、円周の長さの求め方の意味を理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

円について、「直径の長さとの間に何か関係がありそうだ」と気付かせ、円周の長さは直径の長さの何倍になるかと見通しを持たせてから、直径の長さとの関係を調べる活動を授業に位置付けていますか。

直径の長さとの関係を調べる活動では、どのような大きさの円についても、円周の長さの直径の長さに対する割合が一定であることを見いだす活動を授業に位置付けていますか。

- ◆ 3 示された情報を解釈し、判断した理由について根拠を明確にして説明することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。

示された情報を図に表したり問題解決に関係のある数量を取り出して表に整理したりして、複数の情報を関連付けて問題解決に必要な数量を見いだす活動を授業に位置付けていますか。

式と答えだけでなく、立てた式の根拠や求めた数値が何を表しているかを説明する活動を授業に位置付けていますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。




## 中学校数学（中学2年生、中学3年生）

### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 文字式の加法と減法の計算や単項式どうしの除法の計算をする技能が身に付いている。  
(中学2年生  $\boxed{1}$ (3)、中学3年生A  $\boxed{2}$ (2))
- ◇ 空間における直線と直線との位置関係や、多角形の内角の和の性質を理解することができている。  
(中学2年生  $\boxed{6}$ (3)、中学3年生A  $\boxed{6}$ (2))
- ◇ ヒストグラムから度数を読み取ったり、与えられた資料から中央値を求めたりすることができている。  
(中学2年生  $\boxed{11}$ (1)、中学3年生A  $\boxed{14}$ (2))
- ◆1 錐体の体積は、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の  $\frac{1}{3}$  であることへの理解や、錐体の体積を求める技能に一部課題が見られる。  
(中学2年生  $\boxed{6}$ (5)、中学3年生A  $\boxed{5}$ (4))
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することに課題が見られる。  
(中学2年生  $\boxed{8}$ (4)、中学3年生A  $\boxed{11}$ (2))
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることに課題が見られる。  
(中学2年生  $\boxed{5}$ (3)、中学3年生B  $\boxed{2}$ (2)  $\boxed{3}$ (3))

### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック してみましょう。）

- ◆1 錐体の体積が、それと底面が合同で高さが等しい柱体の体積の  $\frac{1}{3}$  であることを理解し、錐体の体積を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 底面積と高さが等しい柱体と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験で確かめるなど、実感を伴って理解することができるような活動を授業に位置付けていますか。
  - ある錐体の体積を求めるために、どのような見取図をかいて、どの要素が分かればよいかなど、体積を求めるまでの見通しを持つことができるような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆2 反比例や一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 数量の関係を表に表した場合には、それを式やグラフに表すことによって表には表れていない値の組を求めさせたり、式に表した場合には、それを表やグラフに表すことによって変化や対応の様子を具体的に捉えさせたりして、それぞれの表現のよさを考える活動を授業に位置付けていますか。
  - 表、式、グラフを相互に関連付けて理解することができるように、ある一つの関数関係を例として、表、式、グラフにまとめる活動を授業に位置付けていますか。
- ◆3 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - 実生活における問題を、数学を活用して解決する場面を設定し、具体的な数を用いて式に表す活動や、表した式の意味を読み取る活動を授業に位置付けていますか。
  - 説明の構想を立てる場面において、問題解決の見通しが持てるよう、どのような根拠を示せばよいのかを考える活動を授業に位置付けていますか。
  - 自分の考えを持たせた上で、自分の説明と他者の説明を比較し、不足する表現を加えさせるなど、よりよい説明にする活動を授業に位置付けていますか。
  - 事象について、グラフなどの用いるものをはっきりとさせ、どのように用いるか説明する場面を設定し、数学的な表現を用いて説明し合う活動を授業に位置付けていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。



(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表7] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,478	70.6	2.2	80.9	60.9	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	70.7	2.4	81.1	61.1	
	量と測定	7	64.0	2.2	77.9	57.9	
	図形	6	72.1	2.3	81.7	61.7	
	数量関係	7	70.0	2.7	80.0	60.0	
評価の観点	①考え方	6	60.6	4.4	73.3	53.3	
	②技能	11	79.1	1.2	84.1	64.1	
	③知識・理解	10	67.1	2.0	82.0	62.0	
問題形式	選択式	6	66.5	1.1	80.8	60.8	
	短答式	19	73.9	2.0	82.4	62.4	
	記述式	2	51.2	7.3	67.5	47.5	
活用	「活用」に関する問題	4	55.7	5.6	71.3	51.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○		○			92.9	0.1	85	65	◎
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○				○		○			85.2	1.2	85	65	◎
1	(3)	乗数が2位数で、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○				○		○			58.2	0.7	85	65	▼
1	(4)	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○				○		○			90.3	0.7	85	65	◎
1	(5)	四則が混合し、( )を用いた式の計算をすることができる			○		○		○			76.6	1.1	80	60	
2	(1)	整数の除法で、商、除数、余りの大きさの関係を理解している	○				○		○			60.5	6.0	85	65	▼
2	(2)	億の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○				○		○			60.5	1.0	80	60	
2	(3)	結合法則を理解している			○		○		○			66.6	2.1	80	60	
2	(4)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さを求めることができる			○		○		○			89.9	0.9	85	65	◎
3	(1)	数を四捨五入して、上から2桁の概数で表すことができる	○				○		○			87.3	0.9	85	65	◎
3	(2)	条件に適した長さや重さの単位について理解している	○				○		○			70.1	0.2	80	60	
3	(3)	面積についての感覚を身に付けている	○				○		○			20.5	0.7	80	60	▼
3	(4)	長さの単位について理解している	○				○		○			84.1	0.7	85	65	
4		示された情報を基に、貯金箱に入っている50円玉の枚数の求め方を筋道を立てて説明することができる	○	○			○		○	○		50.8	7.0	65	45	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(1)				○					○		40.0	1.3	80	60	▼
5	(2)				○					○		75.4	1.7	80	60	
6					○					○		73.5	0.9	85	65	
7	(1)				○					○		79.5	1.0	85	65	
7	(2)				○					○		71.0	2.1	80	60	
8					○					○		88.7	0.8	80	60	◎
9	(1)				○					○		86.7	0.7	85	65	◎
9	(2)				○					○		65.7	2.1	75	55	
10					○	○				○	○	50.2	3.7	75	55	▼
11					○					○	○	70.2	4.1	75	55	
12							○				○	51.6	7.5	70	50	
13							○			○		89.9	4.5	85	65	◎
14					○					○		69.9	5.4	85	65	

[表8] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,333	57.0	4.0	76.7	56.7	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	58.8	4.5	75.5	55.5	
	量と測定	8	61.1	4.2	76.9	56.9	
	図形	5	57.1	3.6	77.0	57.0	
	数量関係	10	50.9	3.9	75.5	55.5	▼
評価の観点	①考え方	9	47.9	8.4	70.6	50.6	▼
	②技能	5	63.2	2.2	79.0	59.0	
	③知識・理解	10	62.1	0.9	81.0	61.0	
問題形式	選択式	13	58.0	1.9	78.1	58.1	▼
	短答式	6	67.4	1.8	79.2	59.2	
	記述式	5	42.0	11.9	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	10	50.3	7.5	71.0	51.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	○	○			○			○		55.7	1.1	85	65	▼	
	1 (2)	○				○			○		67.0	1.6	80	60		
	1 (3)	○	○			○			○		65.6	1.4	80	60		
	2	○				○			○		41.0	0.6	75	55	▼	
	3	○				○			○		74.1	0.8	85	65		
	4 (1)	○				○			○		74.4	0.3	85	65		
	4 (2)	○				○			○		50.7	0.6	80	60	▼	
	5 (1)	○				○			○		95.4	0.5	85	65	◎	
	5 (2)	○				○			○		62.2	0.7	80	60		
6	○				○			○		75.9	1.8	80	60			
7 (1)	○				○			○		41.4	1.9	80	60	▼		
7 (2)	○	○			○			○		50.4	2.1	80	60	▼		
8	○				○			○		48.2	2.7	80	60	▼		
9	○				○			○		62.6	4.3	75	55			



設問別集計結果

B  
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」 に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と計 算	量 と測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式				記 述 式	十 分 達 成	
1	(1)			○			○	○		○	71.7	0.1	75	55		
1	(2)		○	○			○			○	46.0	12.1	70	50	▼	
2	(1)	○	○		○		○		○	○	73.2	0.9	75	55		
2	(2)	○	○		○		○			○	48.4	1.3	70	50	▼	
3	(1)				○		○			○	19.7	18.6	70	50	▼	
3	(2)				○		○		○	○	21.9	1.2	70	50	▼	
4	(1)	○			○		○		○	○	63.3	5.6	70	50		
4	(2)	○					○			○	57.1	10.5	70	50		
5	(1)	○	○				○			○	38.5	17.7	70	50	▼	
5	(2)	○					○		○	○	62.9	8.1	70	50		

[表9] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,028	67.1	1.5	81.1	61.1	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	11	65.4	1.6	79.5	59.5	
	量と測定	8	59.5	1.9	79.4	59.4	
	図形	5	62.9	2.2	82.0	62.0	
	数量関係	7	67.2	1.7	79.3	59.3	
評価の観点	①考え方	5	46.5	3.7	72.0	52.0	▼
	②技能	15	73.5	1.1	83.0	63.0	
	③知識・理解	7	68.2	0.9	83.6	63.6	
問題形式	選択式	7	58.9	0.8	82.1	62.1	▼
	短答式	18	73.3	1.4	81.9	61.9	
	記述式	2	40.1	5.5	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	4	42.2	3.6	71.3	51.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			94.3	0.5	85	65	◎
1	(2) 被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			89.6	0.7	85	65	◎
1	(3) 被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○				○			○			95.3	0.7	85	65	◎
1	(4) 被除数が真分数、除数が小数の除法の計算ができる	○				○			○			89.9	1.0	80	60	◎
1	(5) 減法と除法が混合した分数の計算をすることができる	○				○			○			50.0	1.4	80	60	▼
2	(1) 1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○			58.4	2.0	80	60	▼
2	(2) 除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係について理解している	○					○		○			53.5	2.1	80	60	▼
2	(3) 分数の大小を理解している	○					○		○			57.8	0.4	85	65	▼
2	(4) m <sup>3</sup> で表された体積を、cm <sup>3</sup> の単位の式に表すことができる	○					○		○			62.6	0.5	85	65	▼
2	(5) mとcmで表された長さを、mで表すことができる	○					○		○			46.7	1.6	85	65	▼
2	(6) 比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる			○			○		○			63.6	3.9	75	55	
2	(7) xやyを用いて数量の関係を式に表すことができる			○			○		○			85.7	0.5	85	65	◎
3	(1) 柱状グラフを読み取ることができる			○			○		○			93.0	0.3	85	65	◎
3	(2) 柱状グラフの特徴を理解している			○			○		○			69.2	0.3	85	65	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
4	(1) 点対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○			○		○		95.0	0.4	85	65	◎	
4	(2) 線対称な図形における対応する点の位置関係を理解している			○			○		○		93.9	0.3	85	65	◎	
5	(1) 台形の面積を求めることができる		○				○		○		80.6	1.1	80	60	◎	
5	(2) 三角柱の体積を求めることができる		○				○		○		75.0	1.6	80	60		
6	(1) 縮図上の長さから実際の長さを計算で求めることができる			○			○		○		38.7	3.7	85	65	▼	
6	(2) 道のりと時間から速さを求めることができる		○				○		○		67.6	2.3	80	60		
6	(3) 円周の長さの求め方を理解している			○			○		○		49.5	0.6	85	65	▼	
6	(4) 分度器を用いて $180^\circ$ より大きい角の大きさを求めることができる		○				○		○		51.5	0.5	80	60	▼	
7	単位量当たりの大きさに着目して、二つの数量の関係を考えることができる	○	○				○		○	○	54.7	1.9	75	55	▼	
8	落ちや重なりがないように、順序よく整理して調べることができる			○			○		○		82.6	0.8	85	65		
9	示された情報を基に、正しい帯グラフを考えることができる	○		○			○		○	○	33.8	1.4	70	50	▼	
10	長方形と正方形を2等分する考えを基に、示された式が正しい理由を説明することができる		○	○			○			○	37.6	6.0	70	50	▼	
11	示された情報を解釈し、料金の合計が安くなる場合を選択し、その根拠を言葉や式を用いて説明することができる	○		○			○			○	42.6	5.0	70	50	▼	



[表10] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,044	53.8	8.8	69.2	49.2	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	14	60.4	8.1	70.4	50.4	
	図形	7	48.5	10.1	70.0	50.0	▼
	関数	6	51.7	7.5	67.5	47.5	
	資料の活用	5	45.2	10.5	67.0	47.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	6	28.8	21.7	60.0	40.0	▼
	②技能	17	59.1	7.4	71.2	51.2	
	③知識・理解	9	60.5	2.9	71.7	51.7	
問題形式	選択式	10	61.0	2.7	71.5	51.5	
	短答式	18	55.5	9.0	70.3	50.3	
	記述式	4	27.9	23.4	58.8	38.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	28.2	22.4	59.0	39.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
1	(1)	正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				97.0	0.4	75	55	◎
1	(2)	指数を含む、正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				78.1	0.9	75	55	◎
1	(3)	文字式の加法と減法の計算をすることができる	○					○				78.0	2.1	75	55	◎
1	(4)	分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○					○				63.3	4.7	70	50	
2	(1)①	自然数の意味を理解している	○					○				82.5	0.7	75	55	◎
2	(1)②	正の数と負の数にまで拡張した数の範囲で、数の大小関係を理解している	○					○				73.6	0.6	75	55	
2	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○				64.7	5.3	70	50	
2	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	○					○				74.2	4.8	75	55	
2	(3)②	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○					○				41.2	16.6	70	50	▼
3		具体的な事象における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○					○		○		29.6	18.4	60	40	▼
4		数量の大小関係を不等式に表すことができる	○					○				65.9	1.0	70	50	
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○				33.6	7.0	70	50	▼
5	(2)	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	○					○				31.5	18.1	65	45	▼
5	(3)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○		○		32.6	33.3	60	40	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
6	(1)		○				○		○		42.8	15.1	70	50	▼	
6	(2)		○				○		○		53.9	3.1	70	50		
6	(3)		○				○		○		83.1	1.7	75	55	◎	
6	(4)		○				○		○		38.4	7.8	70	50	▼	
6	(5)		○				○		○		31.9	13.9	70	50	▼	
7	(1)		○				○		○		65.7	1.9	75	55		
7	(2)		○				○			○	23.4	26.9	60	40	▼	
8	(1)		○				○		○		63.3	9.3	70	50		
8	(2)		○				○		○		44.5	4.1	70	50	▼	
8	(3)		○				○		○		55.1	8.0	70	50		
8	(4)		○				○		○		45.6	2.9	70	50	▼	
9	(1)		○				○		○		62.1	7.8	65	45		
9	(2)		○				○			○	39.8	12.8	60	40	▼	
10	(1)		○				○		○		27.9	14.1	70	50	▼	
10	(2)		○				○		○		53.0	4.9	70	50		
11	(1)		○				○		○		87.1	6.9	75	55	◎	
11	(2)		○				○			○	15.8	20.7	55	35	▼	
12			○				○		○		42.3	6.0	65	45	▼	

[表11] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,068	58.9	6.3	68.8	48.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	16	65.4	6.4	68.8	48.8	
	図形	15	61.2	3.4	69.3	49.3	
	関数	11	54.1	7.3	68.6	48.6	
	資料の活用	8	48.3	10.3	68.1	48.1	
評価の観点	①見方や考え方	10	44.5	15.0	60.5	40.5	
	②技能	18	64.5	7.4	70.3	50.3	
	③知識・理解	22	60.9	1.5	71.4	51.4	
問題形式	選択式	20	59.4	0.9	70.3	50.3	
	短答式	25	64.0	6.7	69.6	49.6	
	記述式	5	31.3	25.8	59.0	39.0	▼
活用	「活用」に関する問題	14	45.1	14.0	61.8	41.8	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
A 問題	1 (1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	○					○		○		95.1	0.3	75	55	◎
	1 (2)	絶対値の意味を理解している	○					○		○		63.1	7.2	75	55	
	1 (3)	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	○					○		○		67.1	1.1	70	50	
	1 (4)	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○					○		○		52.7	0.1	70	50	
	2 (1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○					○		○		47.7	7.7	70	50	▼
	2 (2)	単項式どうしの除法の計算ができる	○					○		○		90.7	2.6	75	55	◎
	2 (3)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○		76.7	5.2	70	50	◎
	2 (4)	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	○					○		○		45.5	13.8	70	50	▼
	3 (1)	方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	○					○		○		58.2	0.8	70	50	
	3 (2)	簡単な比例式を解くことができる	○					○		○		87.7	4.8	70	50	◎
	3 (3)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○		79.7	4.4	70	50	◎
	3 (4)	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	○					○		○		78.2	1.4	70	50	◎
	4 (1)	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	○					○		○		65.0	0.3	70	50	
	4 (2)	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	○					○		○		51.6	0.8	70	50	



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
4	(3)		○						○		66.5	4.3	70	50		
5	(1)		○						○		69.2	1.5	75	55		
5	(2)		○						○		70.9	2.7	75	55		
5	(3)		○						○		81.8	0.3	75	55	◎	
5	(4)		○						○		55.4	0.5	70	50		
6	(1)		○						○		67.5	0.4	70	50		
6	(2)		○						○		74.7	0.4	70	50	◎	
7	(1)		○						○		69.3	0.5	70	50		
7	(2)		○						○		77.3	0.6	70	50	◎	
8			○						○		46.1	0.7	70	50	▼	
9	(1)		○						○		60.0	1.2	70	50		
9	(2)		○						○		46.6	13.5	70	50	▼	
9	(3)		○						○		52.5	1.7	70	50		
10			○						○		67.0	3.6	75	55		
11	(1)		○						○		41.1	14.7	70	50	▼	
11	(2)		○						○		54.5	1.2	75	55	▼	
12			○						○		38.7	1.2	70	50	▼	
13			○						○		60.7	2.0	70	50		
14	(1)		○						○		69.0	1.5	75	55		
14	(2)		○						○		77.5	4.7	75	55	◎	
15	(1)		○						○		37.6	2.1	70	50	▼	
15	(2)		○						○		69.2	10.1	75	55		
B 問題	1	(1)	○						○	○	47.2	10.1	65	45		
	1	(2)	○						○	○	40.7	6.8	65	45	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(3)				○					○	○	34.1	23.0	55	35	▼
2	(1)	○							○		○	88.6	4.7	65	45	◎
2	(2)	○								○	○	30.6	31.2	60	40	▼
2	(3)	○							○		○	66.3	2.2	60	40	◎
3	(1)			○					○		○	63.1	0.5	65	45	
3	(2)			○					○		○	76.1	7.2	60	40	◎
3	(3)			○						○	○	34.4	33.9	60	40	▼
4	(1)		○						○		○	51.3	0.8	65	45	
4	(2)		○							○	○	31.0	10.9	60	40	▼
4	(3)		○							○	○	39.9	26.0	60	40	▼
5	(1)			○					○		○	10.1	24.4	65	45	▼
5	(2)	○								○	○	17.3	15.4	60	40	▼

#### (4) 地域別の状況

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表12]のとおりで、依然として地域間の学力差はみられる状況にあるが、5学年中4学年で、昨年度と比べて地域差が縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、ほとんどの学年・地域で「おおむね達成」の基準を上回っているものの、小学校6年生の2地域と中学校2年生の1地域で、「おおむね達成」の基準に到達していない。[グラフ23]

[表12] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H30	0.99	1.01	1.00	1.01	0.99	縮 0.02
		H29	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	算数	H30	1.01	1.01	0.97	1.01	0.99	縮 0.04
		H29	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99	0.05
中学校1年生	数学	H30	1.01	1.03	0.97	0.99	0.98	拡 0.06
		H29	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97	0.05
中学校2年生	数学	H30	1.01	1.05	0.91	0.99	1.01	▲ 縮 0.14
		H29	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03	▲ 0.17
中学校3年生	数学	H30	1.02	1.04	0.94	0.98	1.02	▲ 縮 0.10
		H29	1.01	1.02	0.94	0.98	1.07	▲ 0.13

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

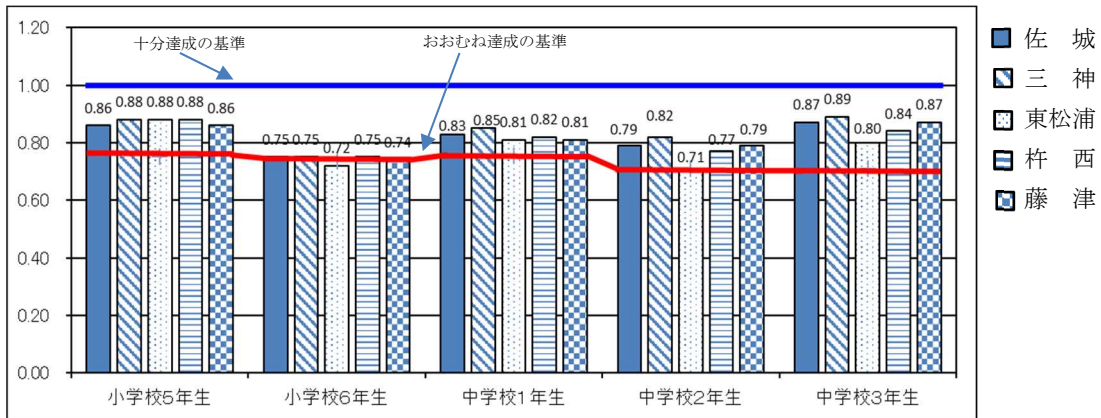
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成29年度調査より地域差が拡大した学年を、「縮」は縮小した学年を示す

[グラフ23] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神崎市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町